

日本リンパ網内系学会プログラム委員会 議事録

開催日時：平成 28 年 9 月 3 日（金）7:50~8:20

開催場所：ホテル日航熊本 5 階肥後 A・B

出席者（敬称略）：

三浦偉久男，中村栄男，大島孝一，鈴宮淳司，田丸淳一，正木康史，高松泰，橋本優子，百瀬修二，磯部泰司，加藤省一

議題

1. 第 57 回リンパリンパ網内系学会総会プログラムについて

三浦次期会長から、次回の総会（平成 29 年 6 月 29 日（木）～7 月 1 日（土），場所：東京都新宿区の京王プラザホテル）のプログラムの内容・スケジュールについて資料 1 に示す内容の説明があった。

第 27 回日本樹状細胞研究会（会長：東京医科歯科大学難治疾患研究所 生体防御学分野 横木 俊聰 先生），第 20 回日本血液病理研究会（会長：東海大学医学部基盤診療学系病理診断学 中村 直哉 先生）と同時に開催する。

6 月 29 日（木）に今年お越しいただけなかった Campo 先生をお招きし，サテライトセミナーを開催する。6 月 30 日（金）には、今回のテーマである「リンパ網内系の温故知新」ということで、高橋 潔 先生に「網内系の歴史と今日的意義」について特別講演をお願いし、日本樹状細胞研究会と合同で開催する。同日にはシンポジウム 3 つ、優秀演題口演、モーニングセミナーとランチョンセミナーを 2 つずつを予定している。7 月 1 日（土）には、日本の臨床研究のあゆみについて下山正徳先生に特別講演をお願いする。同日に骨髄腫のシンポジウムとリンパ腫治療についてのシンポジウム、モーニングセミナー、ランチョンセミナーを 2 つずつ行う予定である。

ポスター発表と合わせて、リンパ腫・骨髄腫の染色体異常について、谷脇先生と三浦次期会長で病態生理を考えた解説をする。重要な症例は論文化を勧め、できれば学会誌の見開き 2 ページのコーナーに発表していただくよう著者に促す。

2. タイムテーブルについて（資料 2）

前回のプログラム委員会で問題となっていた優秀演題は 2 日目に組みこむことになった。

問題は 3 日目で、今まで午前中で終了していたが、ランチョンセミナーを入れないと財政的に厳しかため、午後にもセッションを組まざるを得なくなり、リンパ腫の治療のシンポジウムを組み入れた。教育委員会主催の若手セミナーとシンポジウムが重なるようになってしまったが、ご意見をいただきたいということで三浦次期会長から提案があったが、特に異論なく了承

された。

3. 総会の予算について

前回のプログラム委員会でも議題となつたが、製薬会社からの寄付・援助が厳しい状況であるため、新薬が多数登場している多発性骨髄腫にも焦点を当てたプログラムを組んだ。他学会を参考にしてモーニング・ランチョンセミナーは1社あたり100万円から150万円に値上げする。外国人の招請には最低100万円はかかり学会として招請することは難しく、モーニング・ランチョンセミナーに期待する。機器展示は15万円、会員の先生方に対し講演料は出さず記念品を用意し、非会員の先生方には大学の出張に合わせて交通費と一泊1万円の宿泊費を支出する予定である。

鈴宮委員から研究会支援を打ち出している企業のサポートを活用したらよいのではという提案があった。今後検討することになった。

以上異論なく委員会は終了した。